

母乳栄養に関する疫学的研究

平山宗宏(東京大学)
前田和甫(")

本調査は表1に示すとおり、北海道から岡山迄の各地の病院・産院(うち、東京都内3ヶ所)で、昭和50年10月~51年9月迄の1ヶ年間に出生した児を栄養法別、毎月健診に訪ねる機会に観察した結果を調査票に記入して回収・集計するもので、目下継続中である。したがって今回の報告は、52年1月中旬に回収出来た767例についての中間報告である。

表1 母乳疫学調査の概要

目的: 栄養法別の環境・罹患状況調査
 方法: 昭和50年10月~51年9月の出生児1年間追跡調査
 全国13施設 統一調査表 一括集計
 中間集計: 回収数 767
 出生時、新生児期異常除外
 ↓
 集計に使用 592

回収された集計から除外した新生児期の異常の内容は、在胎36週以上の早産児、出生時体重2,500g未満、Apgar 7以下、切迫仮死で生れたもの、先天奇形をもったもの等であり、それに多胎児は除外した。

その結果、集計対象は表示のように592例である。そのうち、さらに26例は栄養法についての記入が不備であったので除外し、出生后1ヵ月迄の栄養法を、母乳のみのもの、大部分母乳であるが人工乳を少し加えたもの、両者が等しいもの、大部分人工乳であるが、努力して母乳も吞ませているもの、全く母乳を与えられず、人工乳のみの5群にわけ、対象児のバックグラウンド関係事項等を聴取した結果表2に示す。

表2 母乳疫学中間集計

生後1月までの栄養法	母乳のみ	母>人	母=人	母<人	人工のみ
調査例数	331	62	69	44	60
母乳促進処置実施	55.9%	78.0	72.3	74.4	47.5
父:短大 大学卒	41.9	48.2	46.3	36.3	36.2
母: " "	23.6	23.2	22.4	25.0	14.0
分娩後すこぶる好調	70.7	79.0	68.1	65.9	56.7
住居:一戸建	44.9	48.1	42.6	56.1	49.0
:自宅	31.0	37.5	36.0	43.2	42.1
:社宅・官舎	11.3	12.5	8.0	8.1	5.3
:居室3室以下	70.4	72.6	86.0	57.5	58.4

調査対象施設では積極的に母乳栄養をすすめるように指導することに申合わせていた理由もあるのが、混合栄養児では、母乳が出るように処置を施された例が皆高率な結果になっている。

その他の項目については、ほとんど差はなく、対象児の育児環境は略同等であると考えている。

観察内容は図1~3に示すとおり6項目であり、3ヶ月および5ヶ月迄の図は、出生后それぞれの月迄の累計である。

止むを得ない事であるが、出生後日を経るに従い、健診来院者は減少してくるので、図では観察内容を全て%で示した。

図から明らかなごとく、例えば湿疹の有無は1ヶ月迄は両者ほとんど同じであるが、5ヶ月になると人工栄養児が多くなっており、"熱の出ない病気の罹患"を除いて、他は全て5ヶ月時では人工栄養児の方に頻度が高い傾向である。

5ヶ月迄の観察で、"熱の出た病気"の頻度が、人工栄養児に有意に高い結果が得られたが、21/120:12/37を比較したものであり、今日では対象数が多くないので、結論は差し控えたい。

追記

熱の出た病気

URI, LRI, Subitum, 下痢, 風疹, 水痘等。

熱の出ない病気

URI, LRI, 結膜炎, 驚口瘡, 下痢。

図1. 1か月までの栄養法別罹患状況

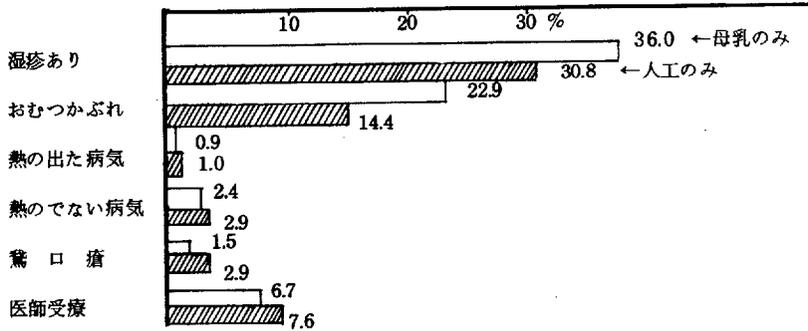


図2. 3か月までの栄養法別罹患状況

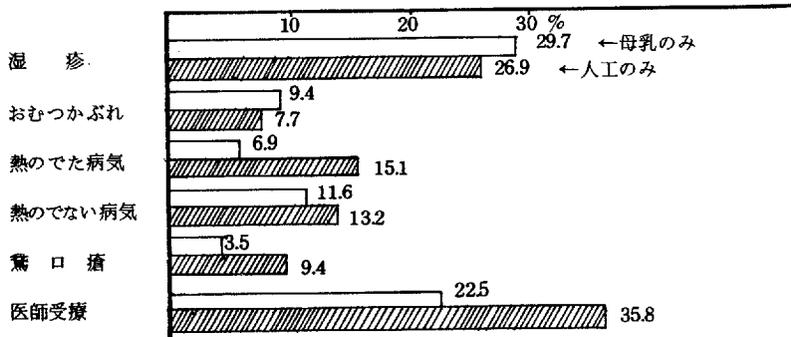
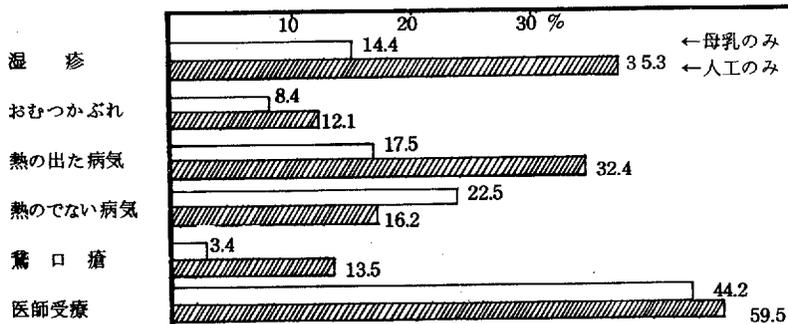


図3. 5か月までの栄養法別罹患状況



↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

本調査は表 1 に示すとおり,北海道から岡山迄の各地の病院・産院(うち,東京都内 3 ケ所)で,昭和 50 年 10 月~51 年 9 月迄の 1 ケ年間に出生した児を栄養法別,毎月健診に訪ねる機会に観察した結果を調査票に記入して回収・集計するもので,目下継続中である。したがって今回の報告は,52 年 1 月中に回収出来た 767 例についての中間報告である。